

【2026年度版】 AI-OCR導入に関する アンケート調査結果レポート

2026 AI-OCR Market Survey

The logo for StartiaRaise, featuring the word "startia" in a bold, lowercase sans-serif font, followed by "raise" in a lighter, lowercase sans-serif font. A red curved line arches over the "i" in "startia".

調査要領：AI-OCRサービス導入に関するアンケート調査

- | | | | |
|----|---------------------------|-----|---------------------|
| Q1 | 国内企業におけるOCRまたはAI-OCRの導入状況 | Q10 | AI-OCRで処理している帳票の種類 |
| Q2 | 導入企業の業種 | Q11 | AI-OCRで処理している帳票のタイプ |
| Q3 | OCRサービス導入の現状 | Q12 | 1日当たりの帳票の処理枚数 |
| Q4 | AI-OCRサービスの利用部門 | Q13 | AI-OCR導入後の成果・効果 |
| Q5 | AI-OCRの運用・管理について | Q14 | AI-OCRの認識精度の満足度 |
| Q6 | AI-OCR導入前の課題 | Q15 | AI-OCR導入後の課題の有無と理由 |
| Q7 | AI-OCRサービスの提供形態 | Q16 | AI-OCRの継続の有無 |
| Q8 | AI-OCR導入前に期待していたこと | Q17 | 今後AI-OCRに期待すること |
| Q9 | AI-OCRサービスの選定理由 | | |

調査要領



調査名

AI-OCRサービス導入に関するアンケート調査

目的

AI-OCRサービスの導入状況や導入前後の課題や、活用状況を調査し、ニーズに沿ったサービスを提供することを目的とする。

対象者

性別：男女
年齢：20歳～
地域：全国

対象者数

(1)全体調査：12,722名
(2)本調査：AI-OCR導入企業ユーザー 507名

実施期間

2025年12月11日～2026年1月11日

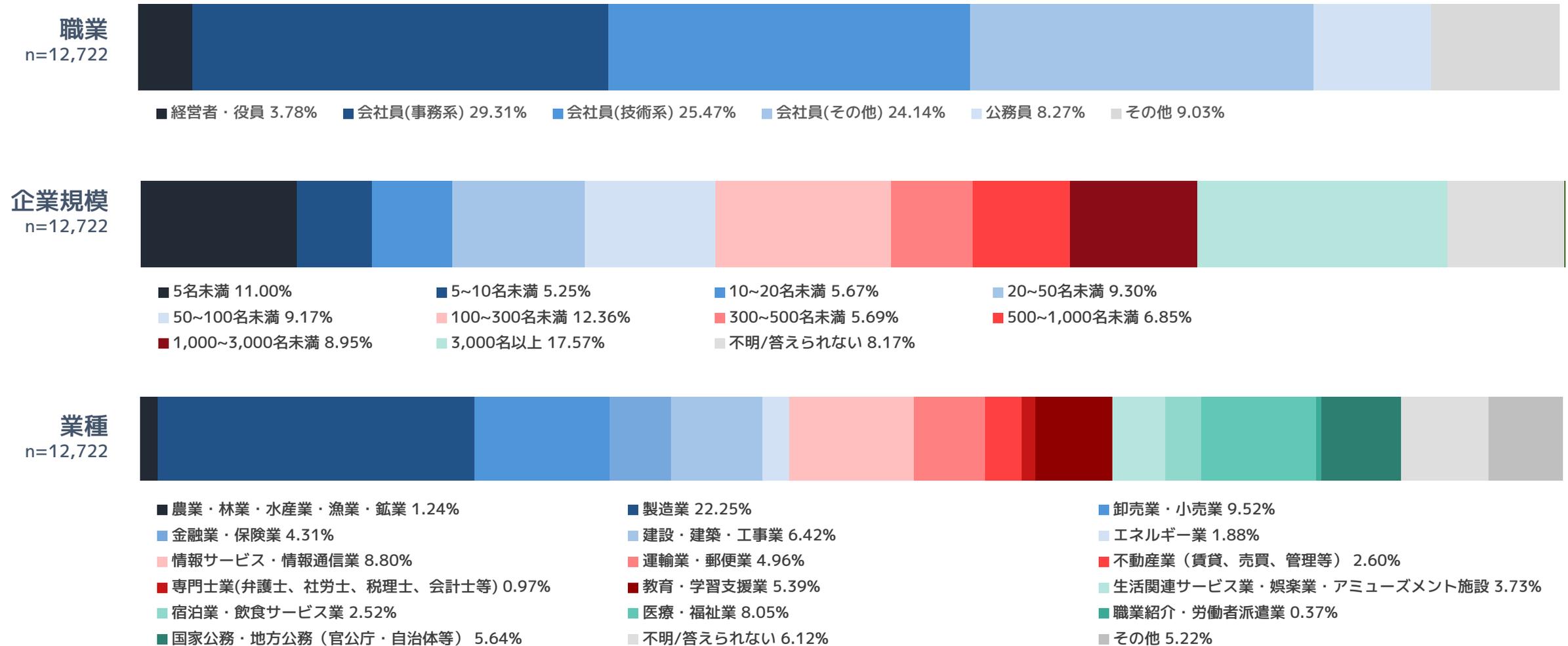
調査方法

インターネットリサーチ
実査委託先：株式会社ジャストシステム

全体調査

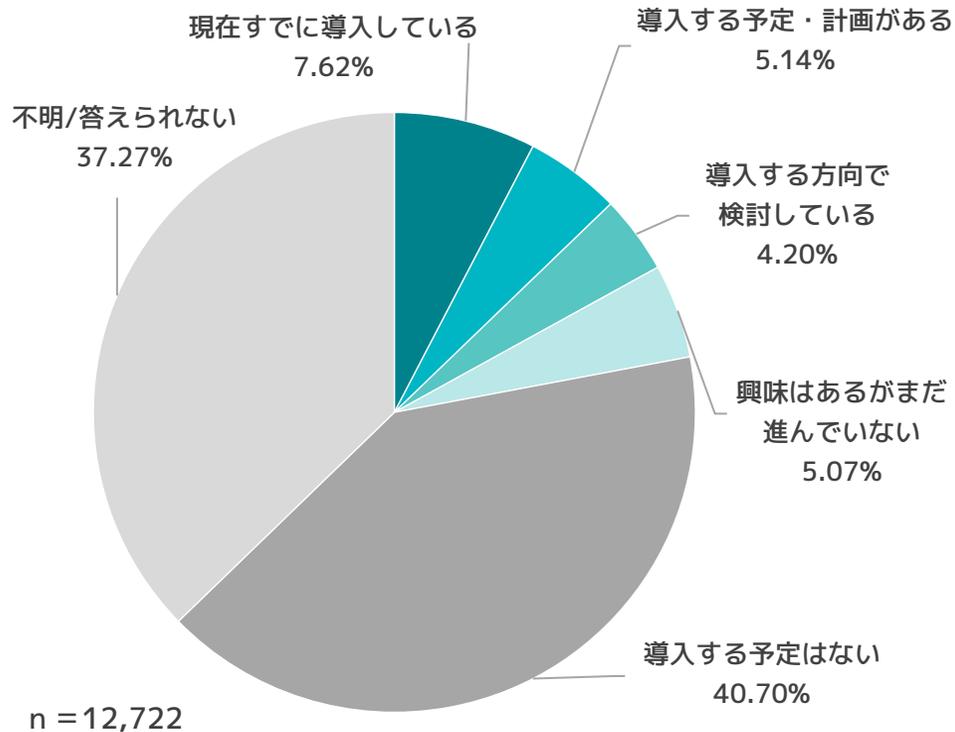
【一般企業勤務者12,722人に対するアンケート調査】

【一般企業勤務者12,722人に対するアンケート調査】

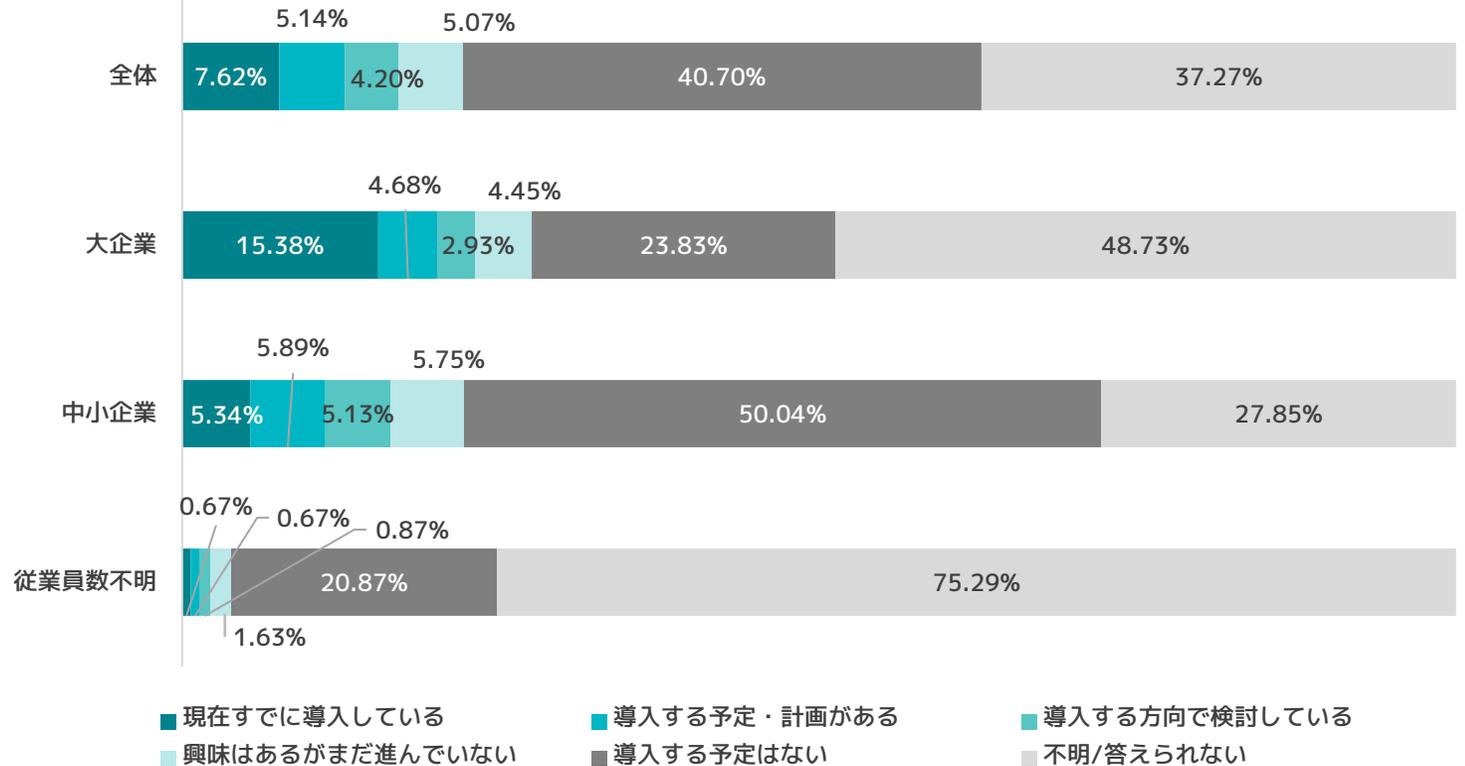


お勤め先、所属先の団体でOCRまたはAI-OCRサービスを導入しているか教えてください。

全体の結果



企業規模ごとの結果

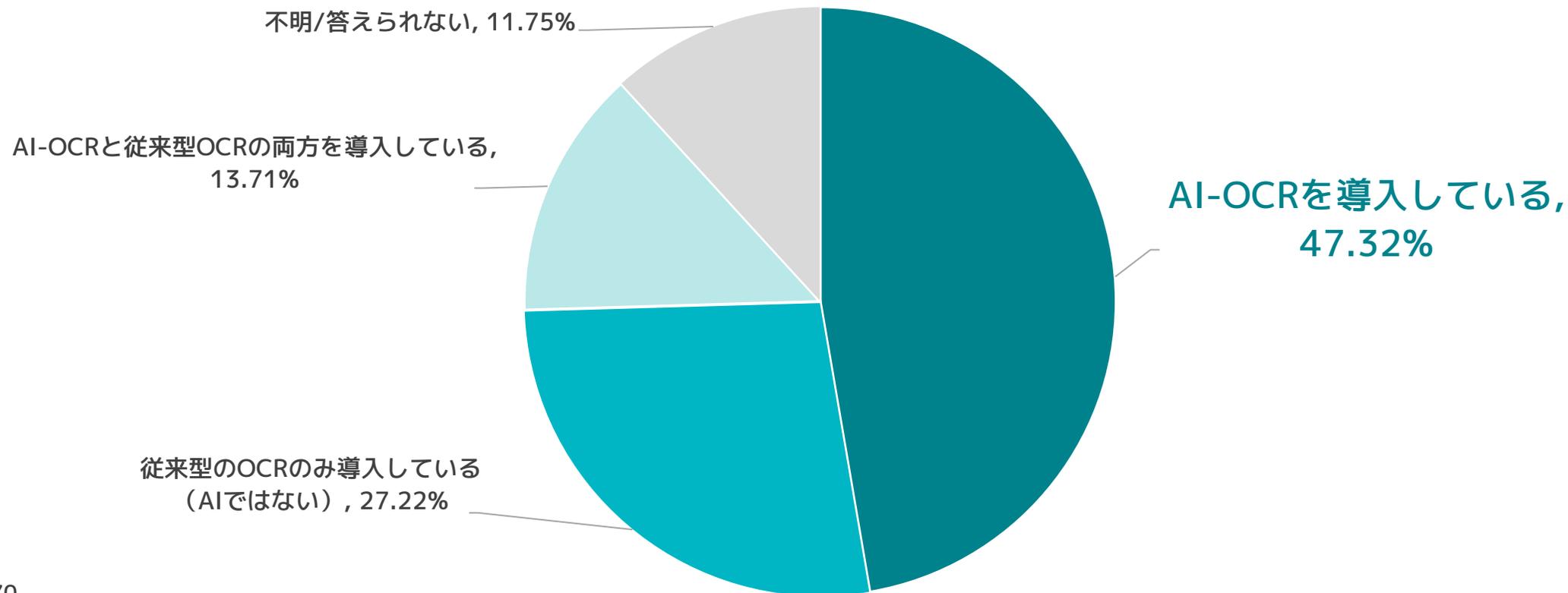


OCRまたはAI-OCRの導入状況を見ると、「現在すでに導入している」と回答した企業は7.62%であった。「導入する予定・計画がある」は5.14%、「導入する方向で検討している」は4.20%となった。

企業規模別では、大企業の導入率は15.38%と全体平均を上回る一方、中小企業は5.34%にとどまった。また、「導入する予定はない」と回答した割合は、中小企業で50.04%と半数を占め、大企業（23.83%）より高い結果となった。

OCRサービス導入の現状

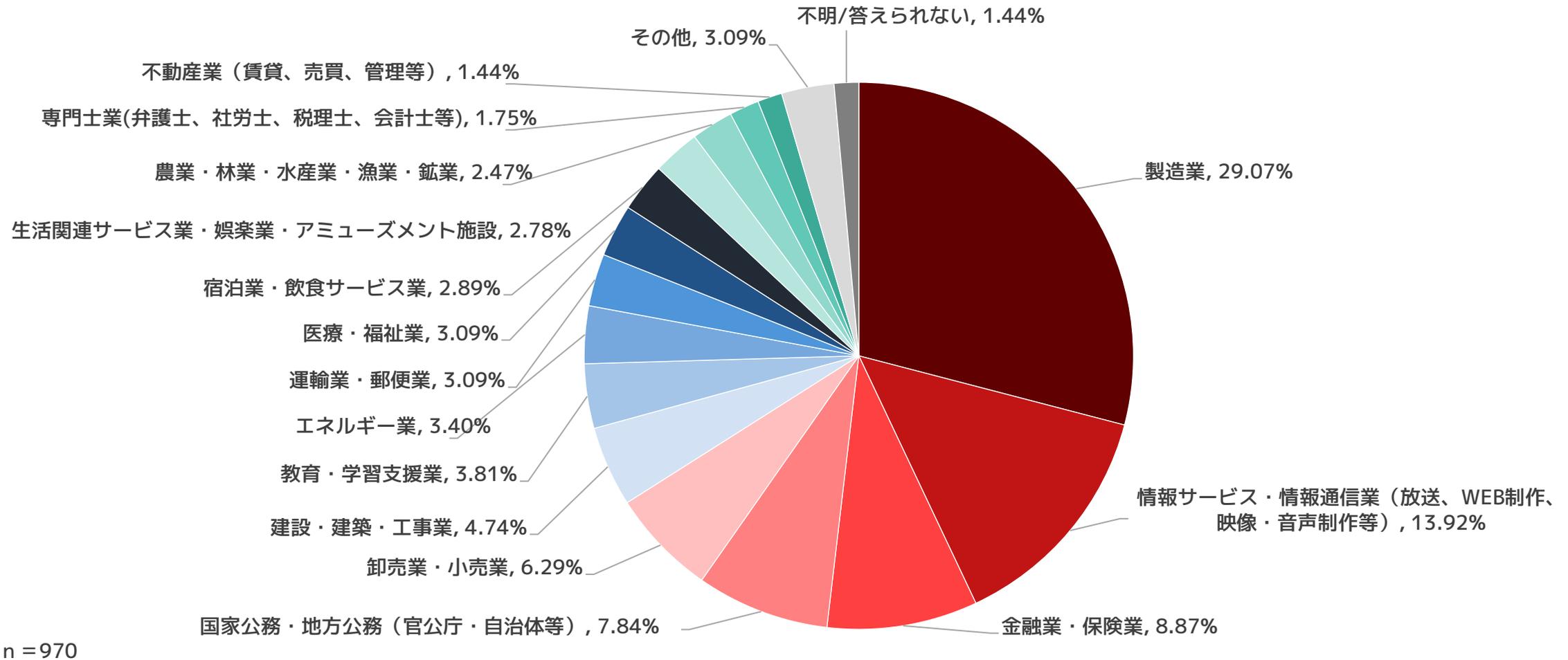
OCRサービス導入の現状について教えてください。



n = 970

OCRまたはAI-OCRを現在導入している企業を対象に、OCRサービスの導入状況を確認したところ、「AI-OCRを導入している」と回答した割合は47.32%で最も多かった。

一方、「従来型のOCRのみ導入している (AIではない)」は27.22%、「AI-OCRと従来型OCRの両方を導入している」は13.71%となった。これらの結果から、OCRを導入している企業の中では、AI-OCRを活用している企業が一定割合を占めていることが分かる。



OCRまたはAI-OCRを現在導入している企業の業種を見ると、「製造業」が29.07%と最も多く、次いで「情報サービス・情報通信業」が13.92%、「金融業・保険業」が8.87%となった。続いて「国家公務・地方公務」が7.84%、「卸売業・小売業」が6.29%、「建設・建築・工事業」が4.74%となっており、幅広い業種でOCRまたはAI-OCRが導入されていることが確認できる。

本調査

【AI-OCRを導入していると答えた一般企業勤務者507人に対するアンケート調査】

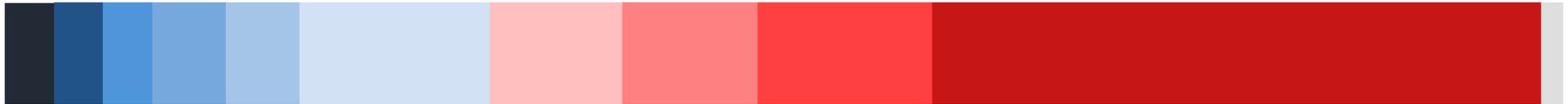
【AI-OCRを導入していると答えた一般企業勤務者507人に対するアンケート】

職業
n=507



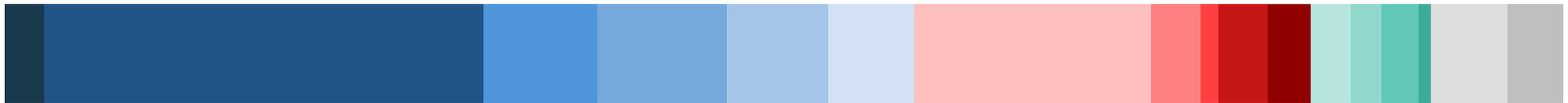
■ 経営者・役員 3.55% ■ 会社員(事務系) 45.36% ■ 会社員(技術系) 32.15% ■ 会社員(その他) 9.47% ■ 公務員 6.51% ■ その他 2.96%

企業規模
n=507



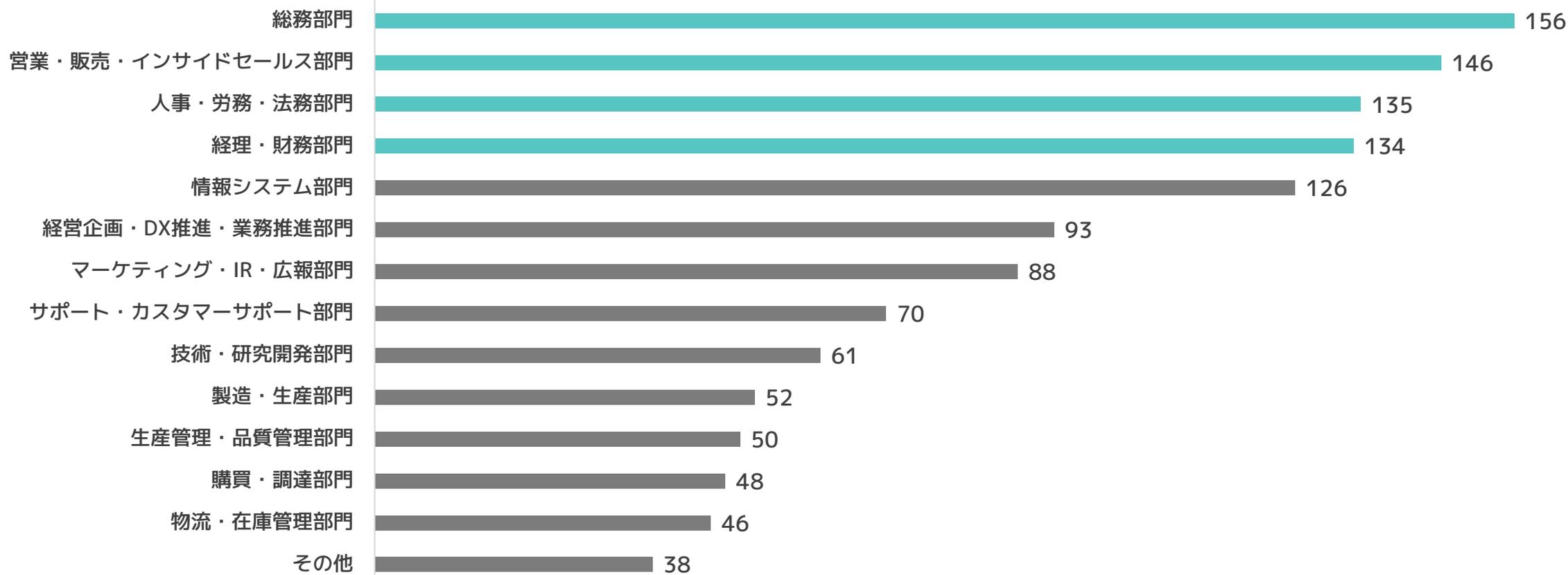
■ 5名未満 3.16% ■ 5~10名未満 3.16% ■ 10~20名未満 3.16% ■ 20~50名未満 4.73%
 ■ 50~100名未満 4.73% ■ 100~300名未満 12.23% ■ 300~500名未満 8.48% ■ 500~1,000名未満 8.68%
 ■ 1,000~3,000名未満 11.24% ■ 3,000名以上 39.05% ■ 不明/答えられない 1.38%

業種
n=507



■ 農業・林業・水産業・漁業・鉱業 2.56% ■ 製造業 28.21% ■ 卸売業・小売業 7.30%
 ■ 金融業・保険業 8.28% ■ 建設・建築・工事業 6.51% ■ 電気・ガス・熱供給・水道業 5.52%
 ■ 情報サービス業・情報通信業 15.19% ■ 運輸業・郵便業 3.16% ■ 不動産業（賃貸、売買、管理等） 1.18%
 ■ 教育・学習支援業 3.16% ■ 生活関連サービス業・娯楽業・アミューズメント施設 2.76% ■ 宿泊業・飲食サービス業 2.56%
 ■ 医療・福祉業 1.97% ■ 専門士業(弁護士、社労士、税理士、会計士等) 2.37% ■ 職業紹介・労働者派遣業 0.79%
 ■ 国家公務・地方公務（官公庁・自治体等） 4.93% ■ その他 3.55%

AI-OCRを主に利用している部門を教えてください。

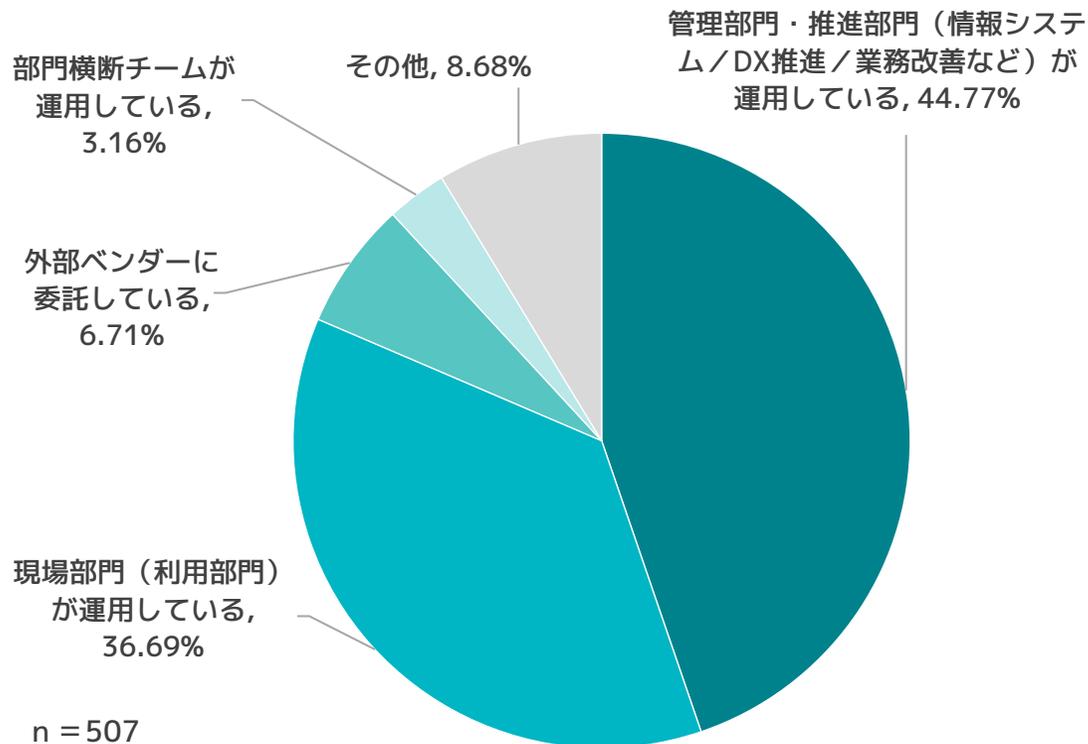


n = 507,複数回答あり

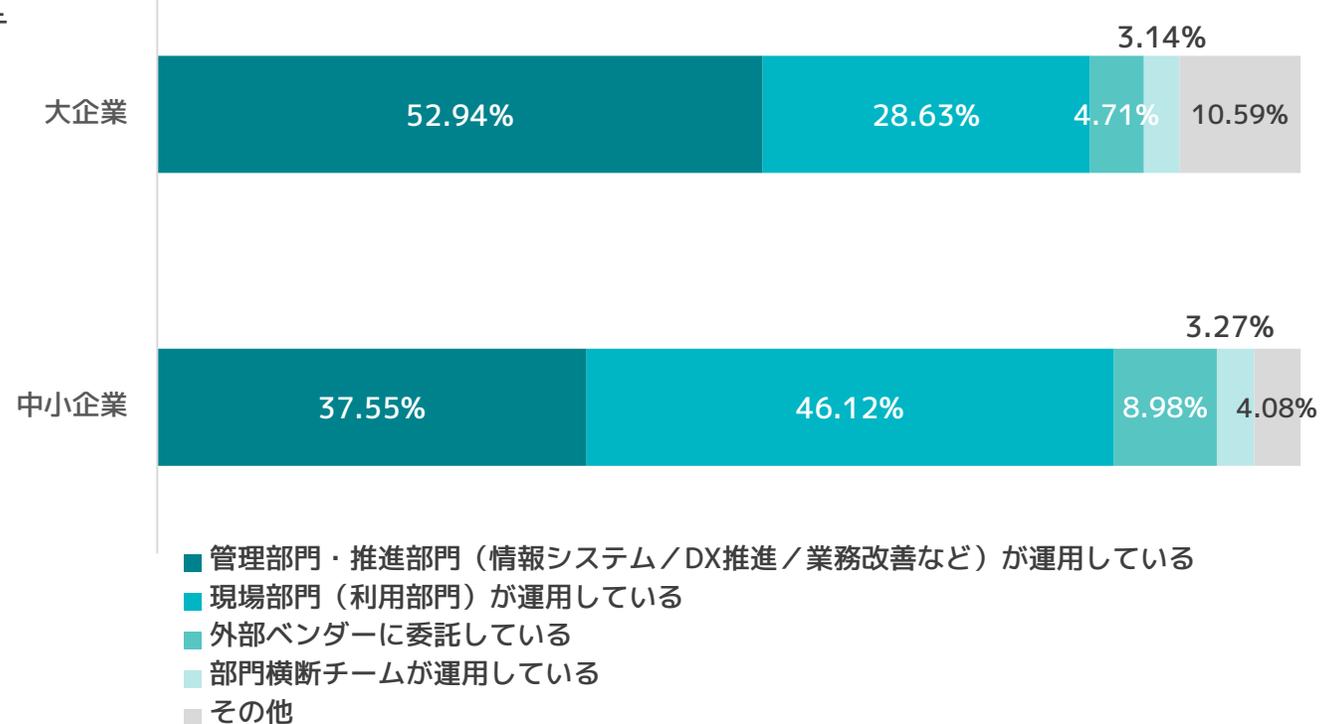
AI-OCRサービスの利用部門を見ると、「総務部門」が156件で最も多く、次いで「営業・販売・インサイドセールス部門」が146件、「人事・労務・法務部門」が135件、「経理・財務部門」が134件となった。「情報システム部門」は126件で続いており、バックオフィス部門を中心に利用されていることがうかがえる。また、「経営企画・DX推進・業務推進部門」や「マーケティング・IR・広報部門」などでも一定数の利用が見られ、AI-OCRの活用は複数の部門に広がっている。

AI-OCRの運用・管理は、主にどの立場の方が担当していますか。最も近いものを選んでください。

全体の結果

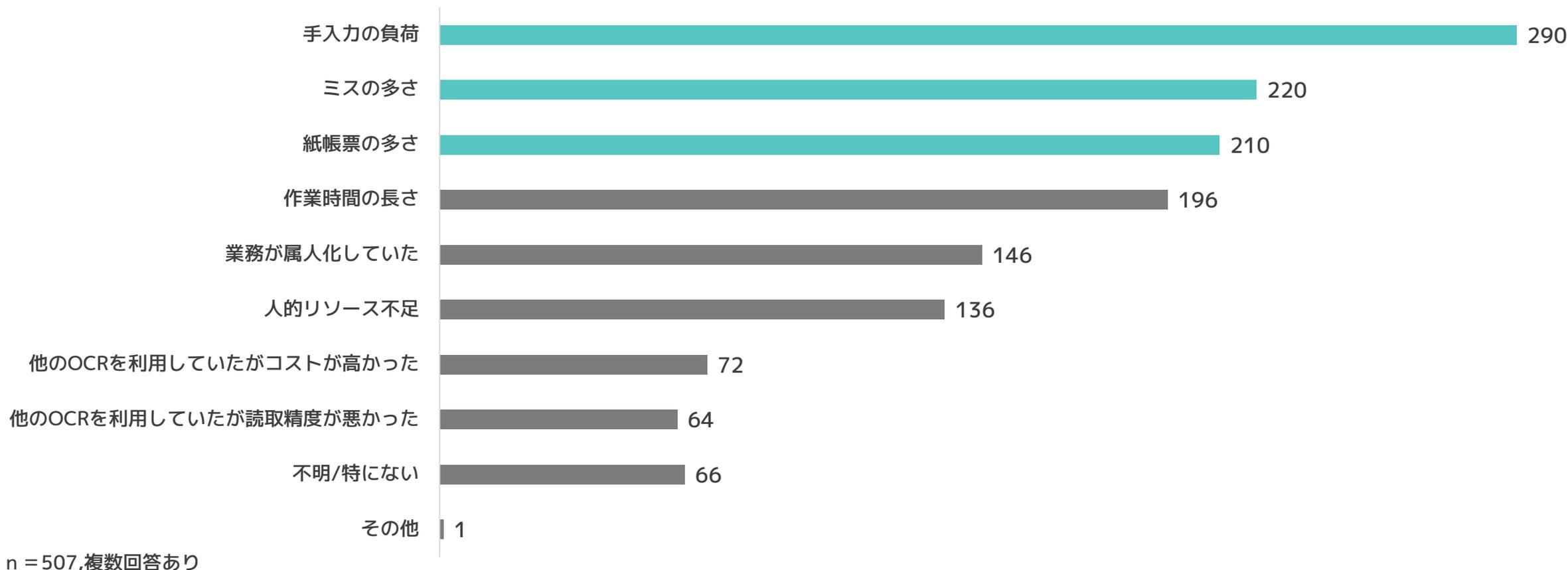


企業規模ごとの結果



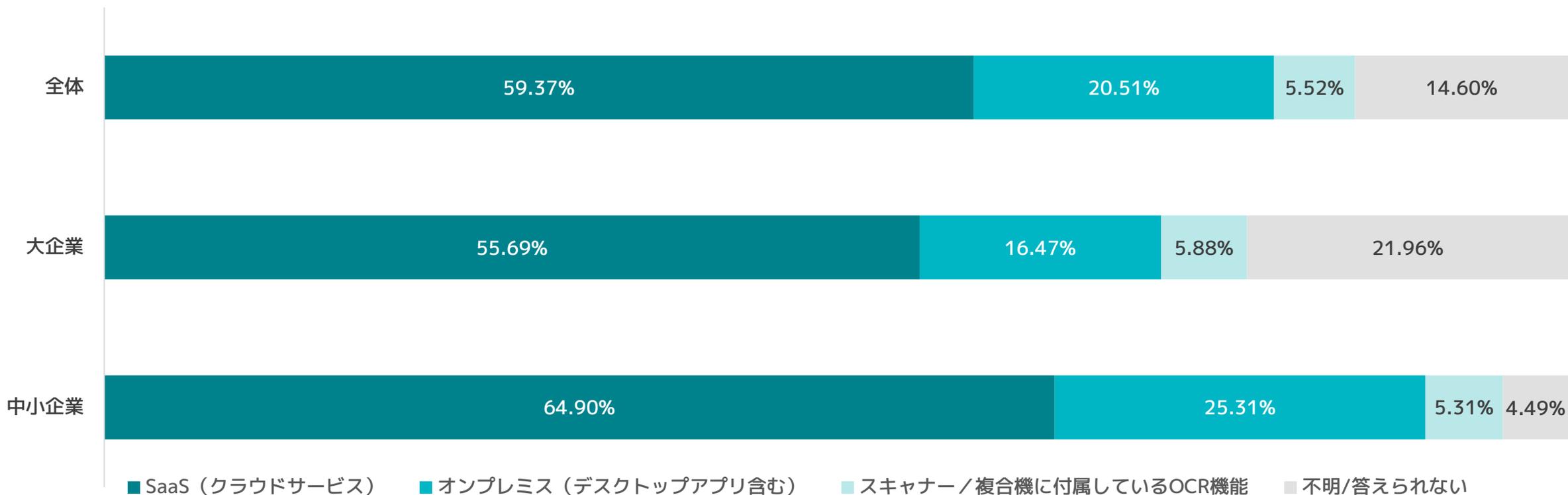
AI-OCRの運用・管理体制について見ると、「管理部門・推進部門（情報システム/DX推進/業務改善など）が運用している」が44.77%で最も多く、「現場部門（利用部門）が運用している」が36.69%が続いた。「外部ベンダーに委託している」は6.71%、「部門横断チームが運用している」は3.16%となっている。企業規模別に見ると、大企業では「管理部門・推進部門」が52.94%と過半数を占める一方、中小企業では「現場部門」が46.12%と最も多くなっており、企業規模によって運用体制に違いが見られる。

AI-OCR導入前、帳票処理や入力業務について、課題に感じていたことを教えてください。



AI-OCR導入前の帳票処理や入力業務における課題としては、「手入力の負荷」が290件で最も多く、次いで「ミスの多さ」が220件、「紙帳票の多さ」が210件、「作業時間の長さ」が196件となった。また、「業務が属人化していた」は146件、「人的リソース不足」は136件と続いている。これらの結果から、手作業による入力業務の負担や効率面に関する課題が多く挙げられていることが分かる。

現在利用しているAI-OCRサービスの提供形態を教えてください。最も近いものを選んでください。

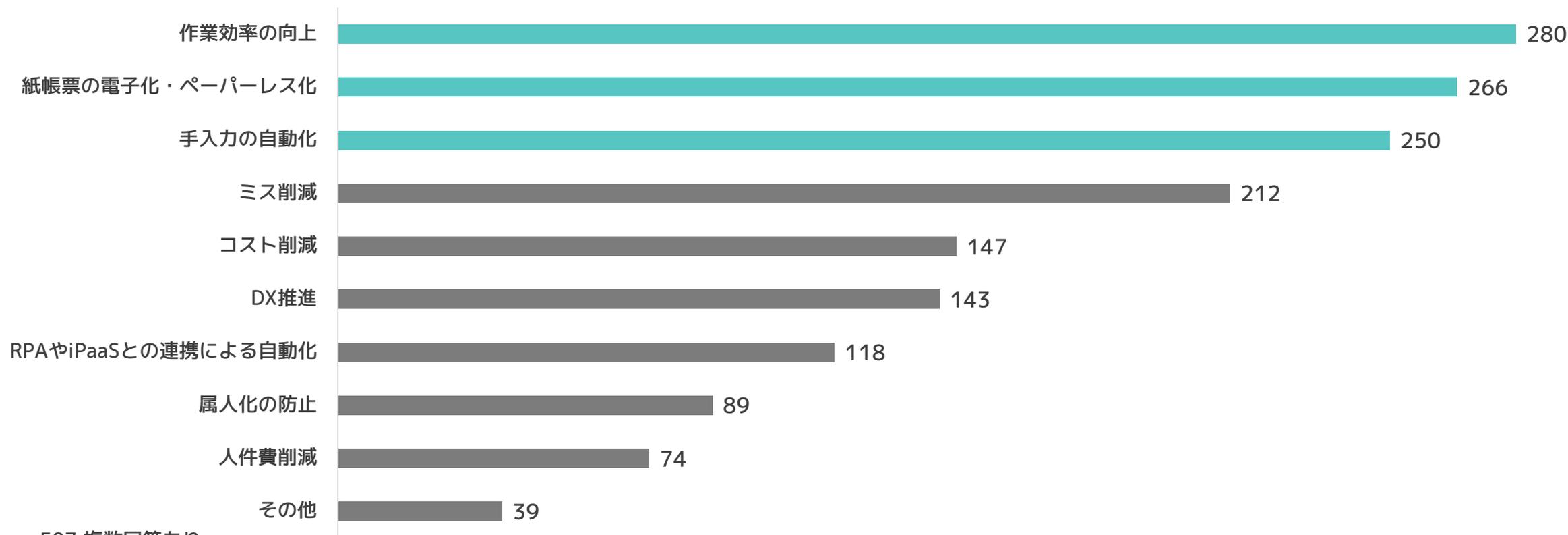


n = 507

AI-OCRサービスの提供形態について見ると、「SaaS (クラウドサービス)」が59.37%と最も多く、「オンプレミス (デスクトップアプリ含む)」は20.51%、「スキャナー/複合機に付属しているOCR機能」は5.52%となった。

企業規模別に見ると、中小企業では「SaaS (クラウドサービス)」が64.90%と最も多く、大企業 (55.69%) より高い割合となっている。一方、「オンプレミス (デスクトップアプリ含む)」は中小企業で25.31%、大企業で16.47%となっている。

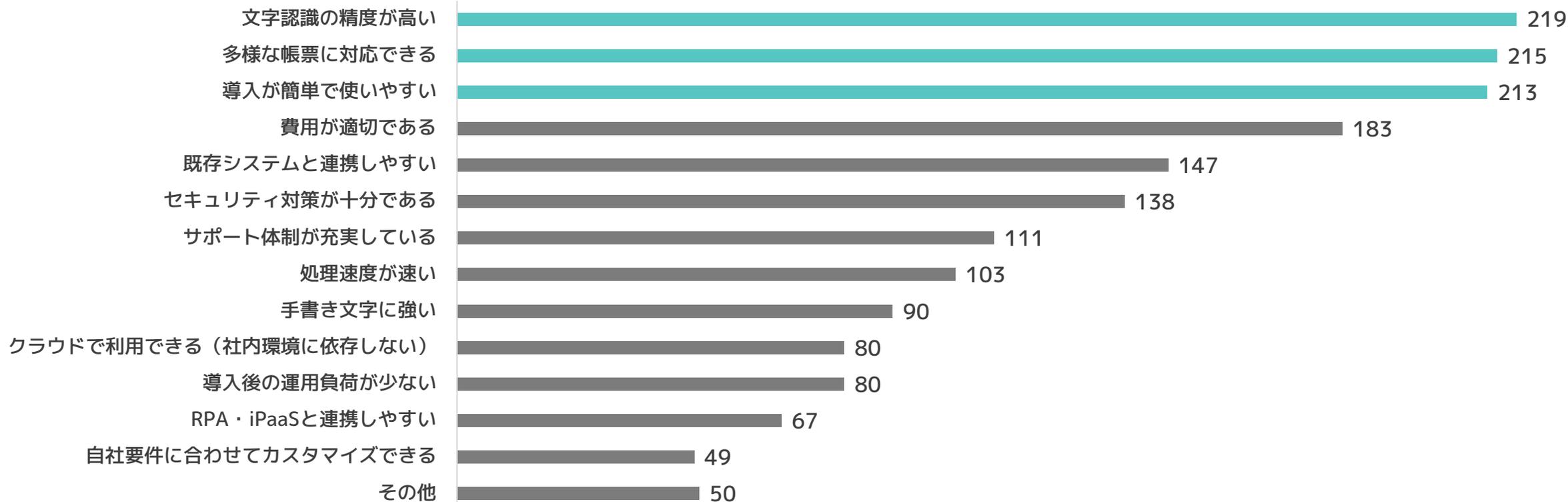
AI-OCRを導入しようと考えた理由や、導入前に期待していたことを教えてください。



n = 507,複数回答あり

AI-OCR導入前に期待していたこととしては、「作業効率の向上」が280件で最も多く、次いで「紙帳票の電子化・ペーパーレス化」が266件、「手入力の自動化」が250件となった。また、「ミス削減」は212件、「コスト削減」は147件、「DX推進」は143件と続いている。さらに、「RPAやiPaaSとの連携による自動化」も118件挙げられており、AI-OCR単体だけでなく、他の自動化ツールと組み合わせた業務効率化への期待も見られる。

AI-OCRの導入にあたり、重視した点（選定理由）を教えてください。



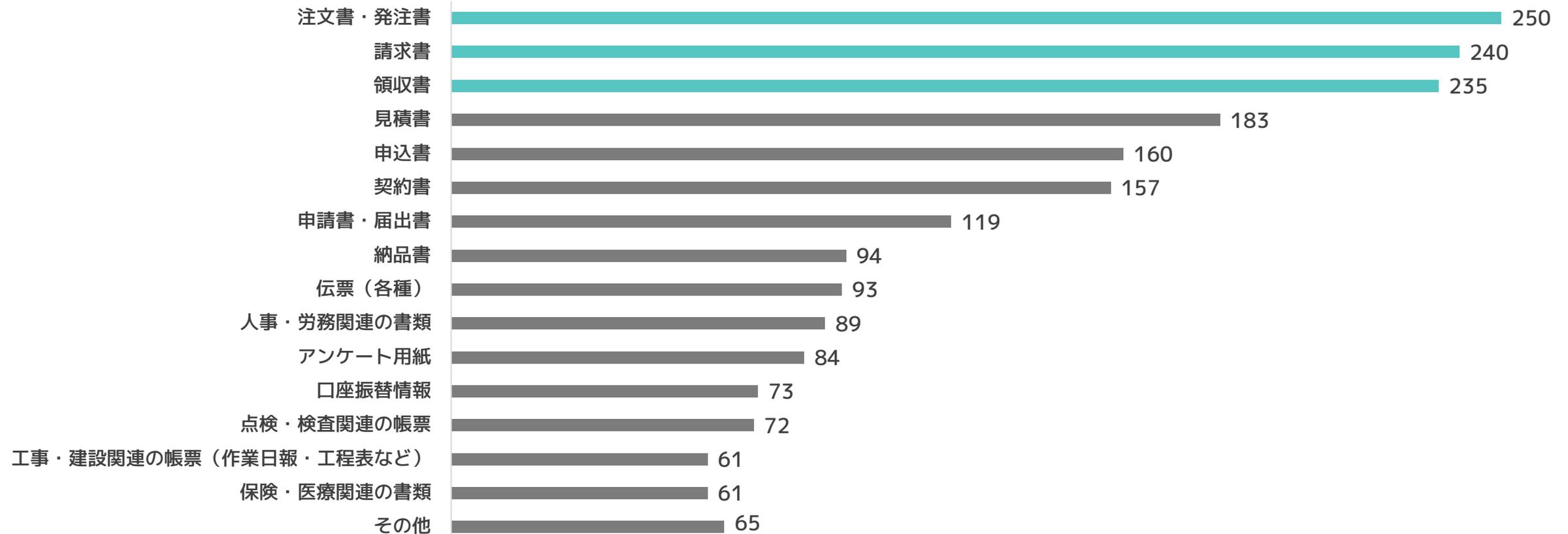
n = 507,複数回答あり

AI-OCRサービスの選定理由としては、「文字認識の精度が高い」が219件で最も多く、次いで「多様な帳票に対応できる」が215件、「導入が簡単で使いやすい」が213件となった。また、「費用が適切である」は183件、「既存システムと連携しやすい」は147件と続いている。これらの結果から、AI-OCRの選定においては認識精度や帳票対応力、導入のしやすさが重視されていることが分かる。

さらに、「RPA・iPaaSと連携しやすい」と回答した企業も67件あり、他の自動化ツールとの連携を考慮した選定も一定数見られる。

Q10 AI-OCRで処理している帳票の種類

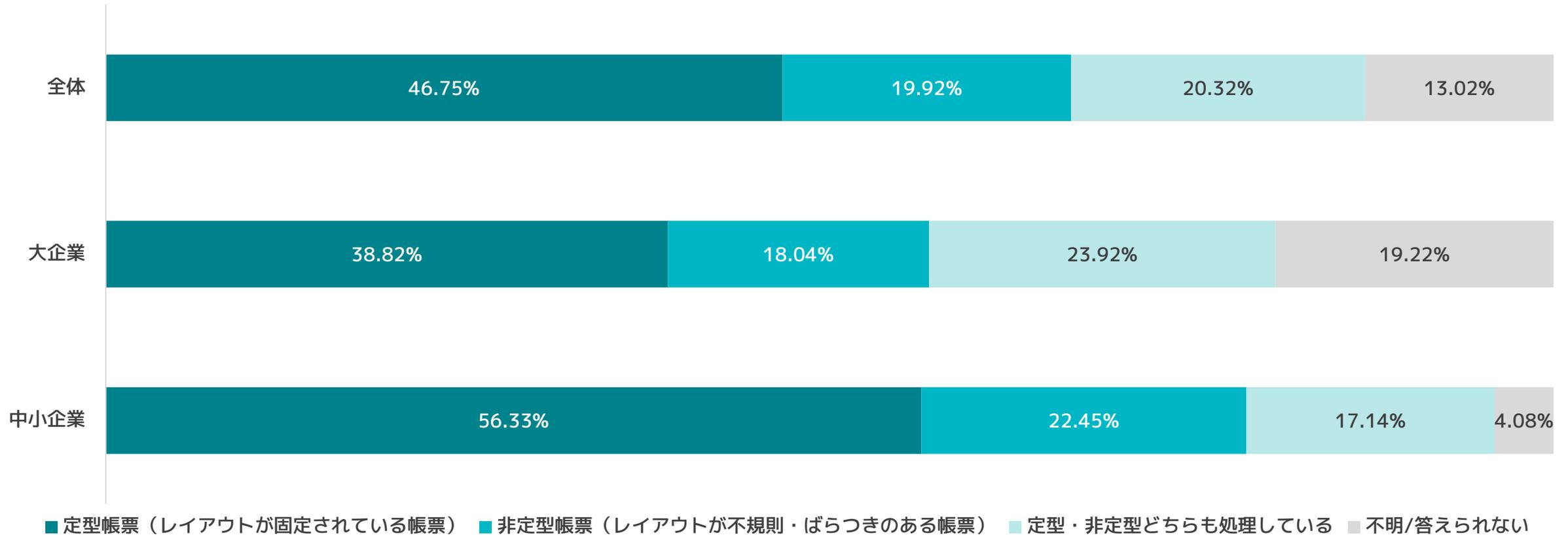
AI-OCRで処理している帳票の種類を教えてください。



n = 507, 複数回答あり

AI-OCRで処理している帳票の種類を見ると、「注文書・発注書」が250件で最も多く、次いで「請求書」が240件、「領収書」が235件となった。続いて「見積書」が183件、「申込書」が160件、「契約書」が157件となっており、取引や申請に関わる帳票での利用が多い傾向が見られる。また、「申請書・届出書」や「納品書」、「伝票（各種）」など幅広い帳票で活用されていることが分かる。

AI-OCRで主に処理している帳票のタイプを教えてください。最も近いものを選んでください。



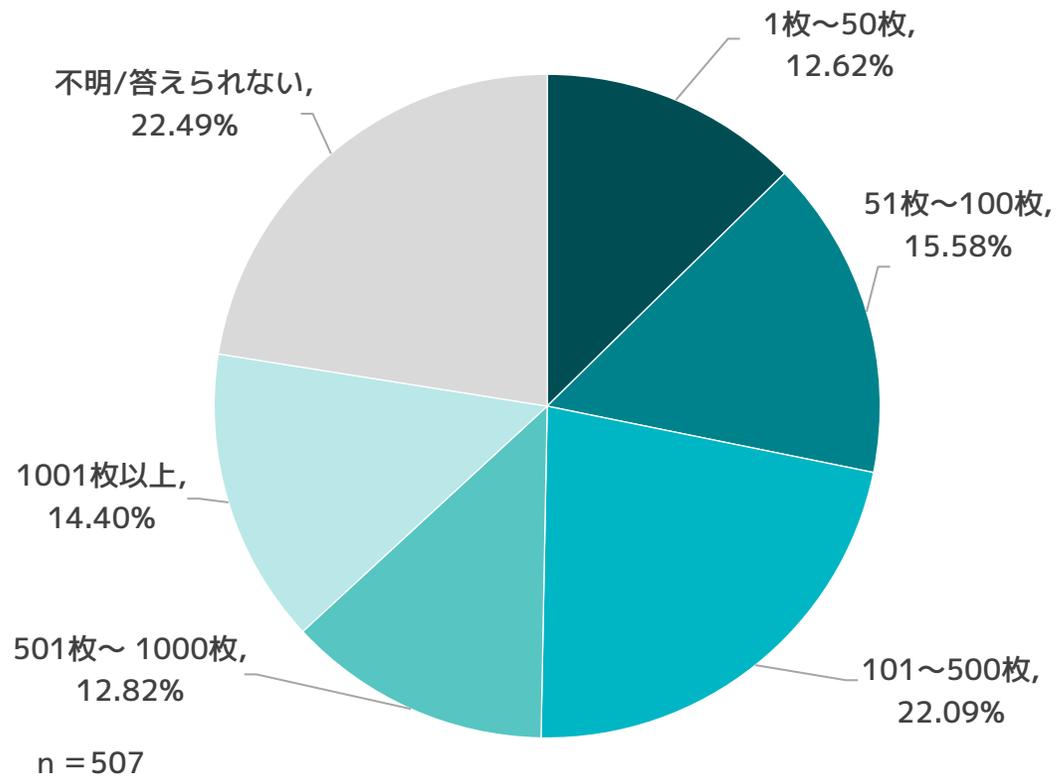
n = 507

AI-OCRで処理している帳票のタイプを見ると、「定型帳票」が46.75%で最も多く、「非定型帳票」は19.92%、「定型・非定型どちらも処理している」は20.32%となった。企業規模別では、中小企業では「定型帳票」が56.33%と半数以上を占めている。一方、大企業では「定型・非定型どちらも処理している」が23.92%となっており、さまざまな帳票にAI-OCRを活用している傾向が見られる。

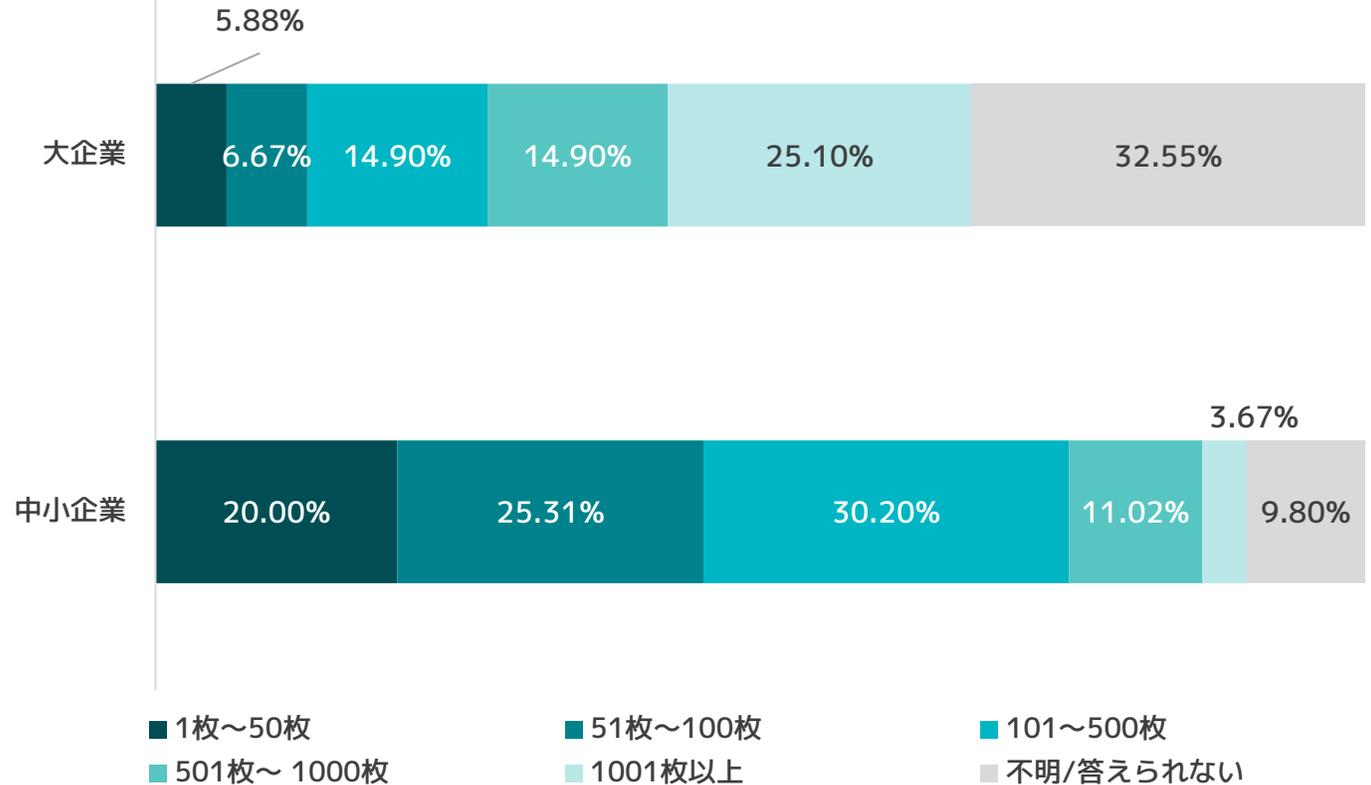
Q12 1日当たりの帳票の処理枚数

1日あたりにAI-OCRで処理している帳票の枚数を教えてください。

全体の結果



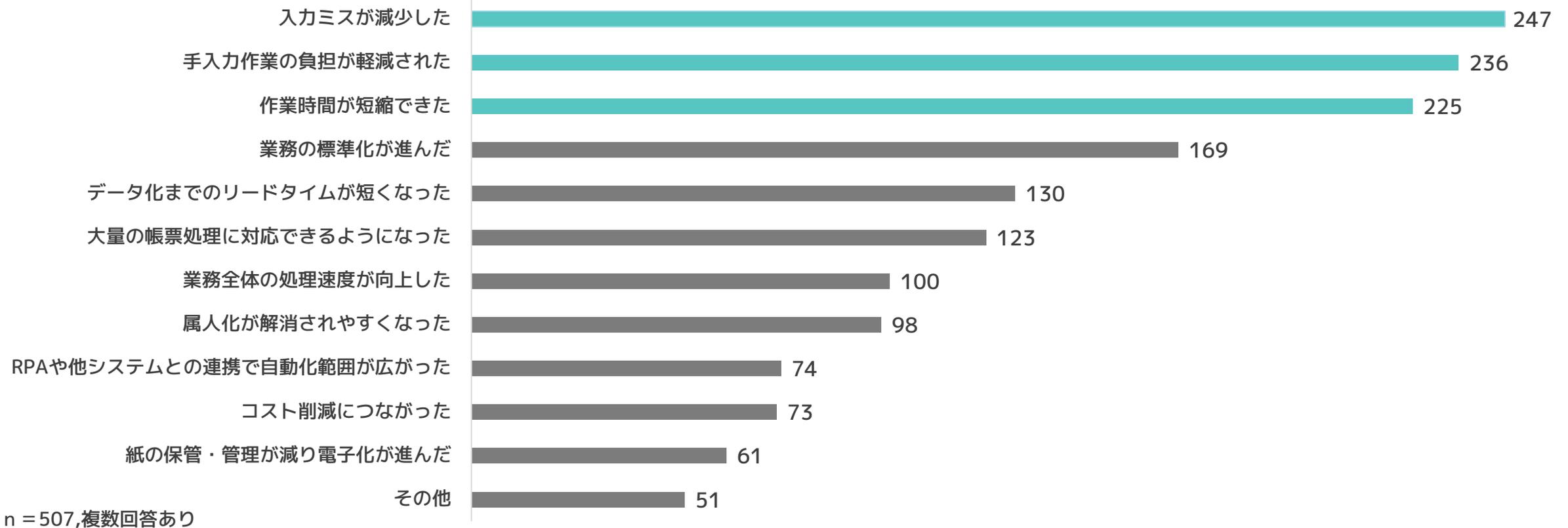
企業規模ごとの結果



1日当たりの帳票処理枚数を見ると、「101枚～500枚」が22.09%で最も多く、次いで「51枚～100枚」が15.58%、「1001枚以上」が14.40%、「501枚～1000枚」が12.82%、「1枚～50枚」が12.62%となった。企業規模別に見ると、大企業では「1001枚以上」が25.10%と最も多く、大量の帳票処理にAI-OCRを活用している企業が一定数見られる。一方、中小企業では「101枚～500枚」が30.20%で最も多く、比較的中規模の帳票処理で活用されている傾向が見られる。

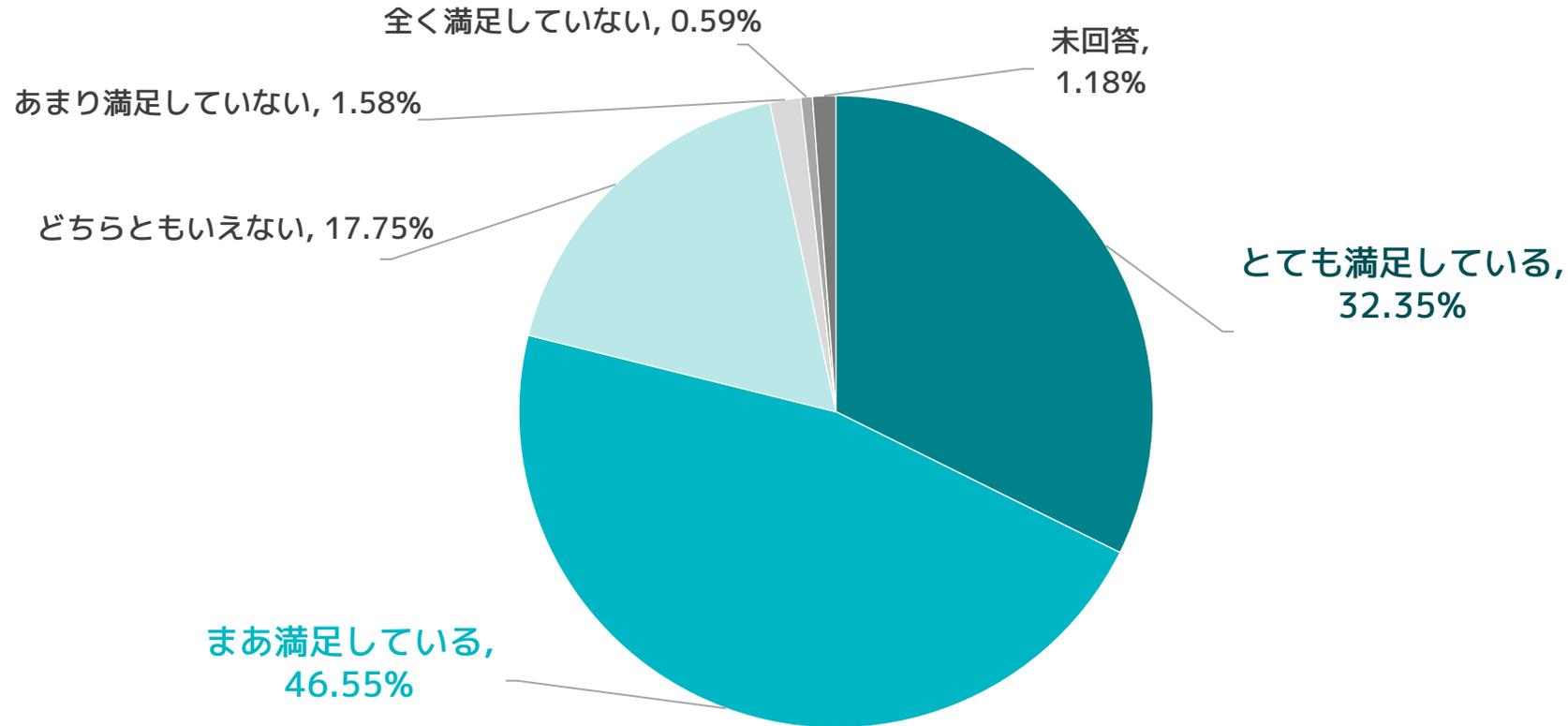
Q13 AI-OCR導入後の成果・効果

AI-OCR導入後に感じている成果・効果を教えてください。



AI-OCR導入後に感じている成果・効果としては、「入力ミスが減少した」が247件で最も多く、次いで「手入力作業の負担が軽減された」が236件、「作業時間が短縮できた」が225件となった。また、「業務の標準化が進んだ」は169件、「データ化までのリードタイムが短くなった」は130件、「大量の帳票処理に対応できるようになった」は123件と続いている。さらに、「RPAや他システムとの連携で自動化範囲が広がった」は74件挙げられており、AI-OCRを他のツールと組み合わせることで業務の自動化を進めている企業も見られる。

AI-OCRの認識精度についての満足度を教えてください。



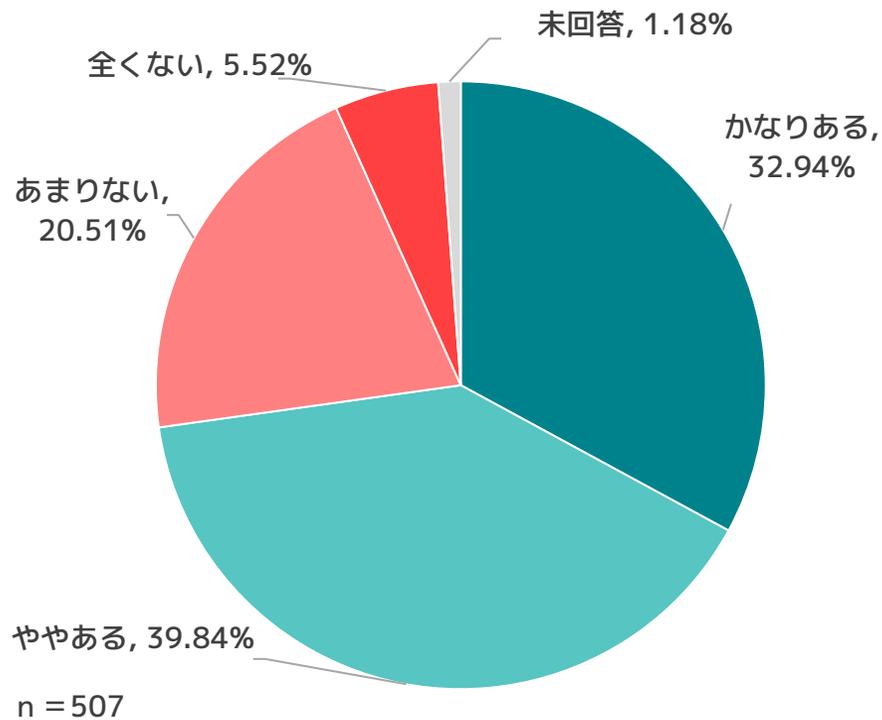
n = 507

AI-OCRの認識精度の満足度を見ると、「まあ満足している」が46.55%で最も多く、次いで「とても満足している」が32.35%となった。「どちらともいえない」は17.75%、「あまり満足していない」は1.58%、「全く満足していない」は0.59%となっている。これらの結果から、AI-OCRの認識精度については全体として満足している企業が多いことが分かる。

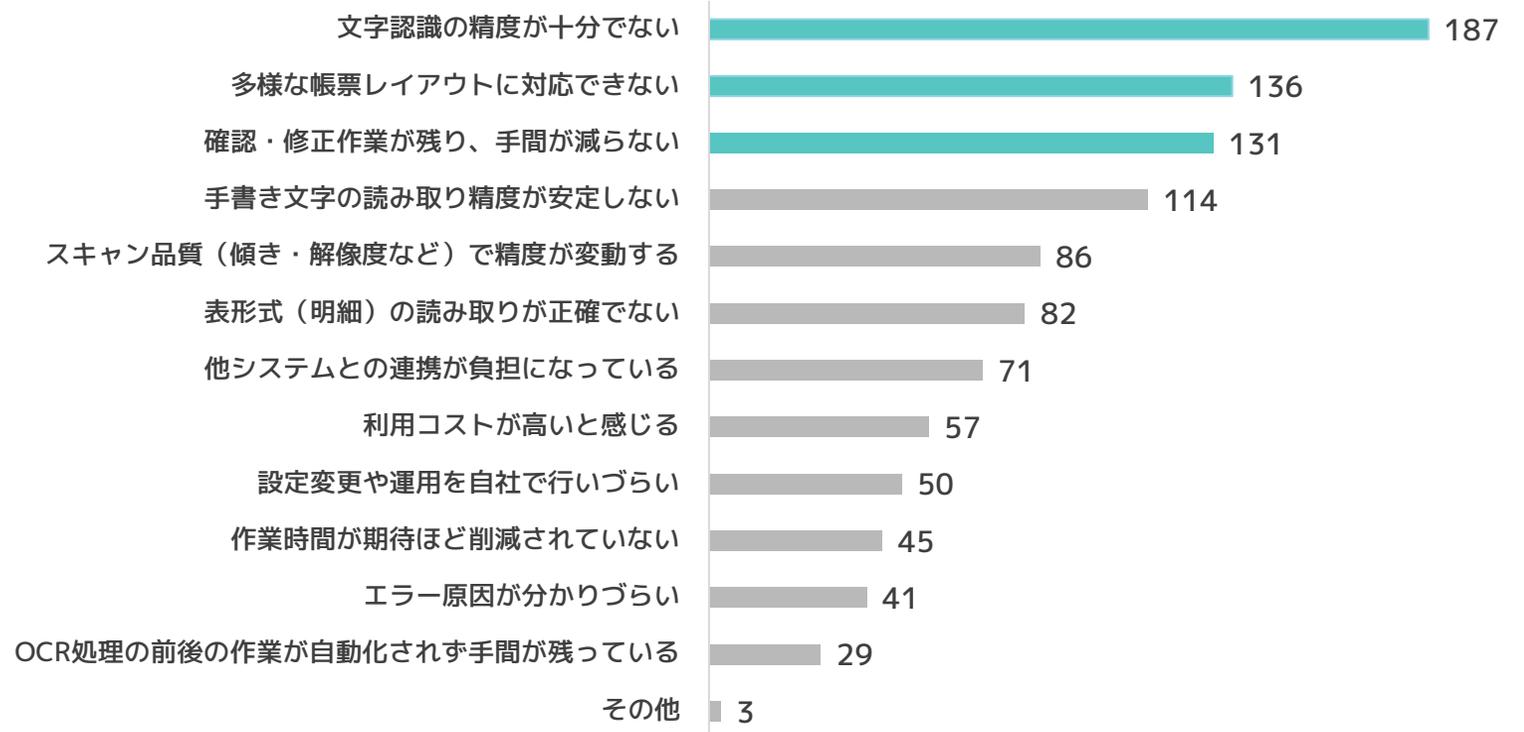
Q15 AI-OCR導入後の課題の有無と理由

AI-OCRを導入した後、課題に感じていることはありますか。

全体の結果



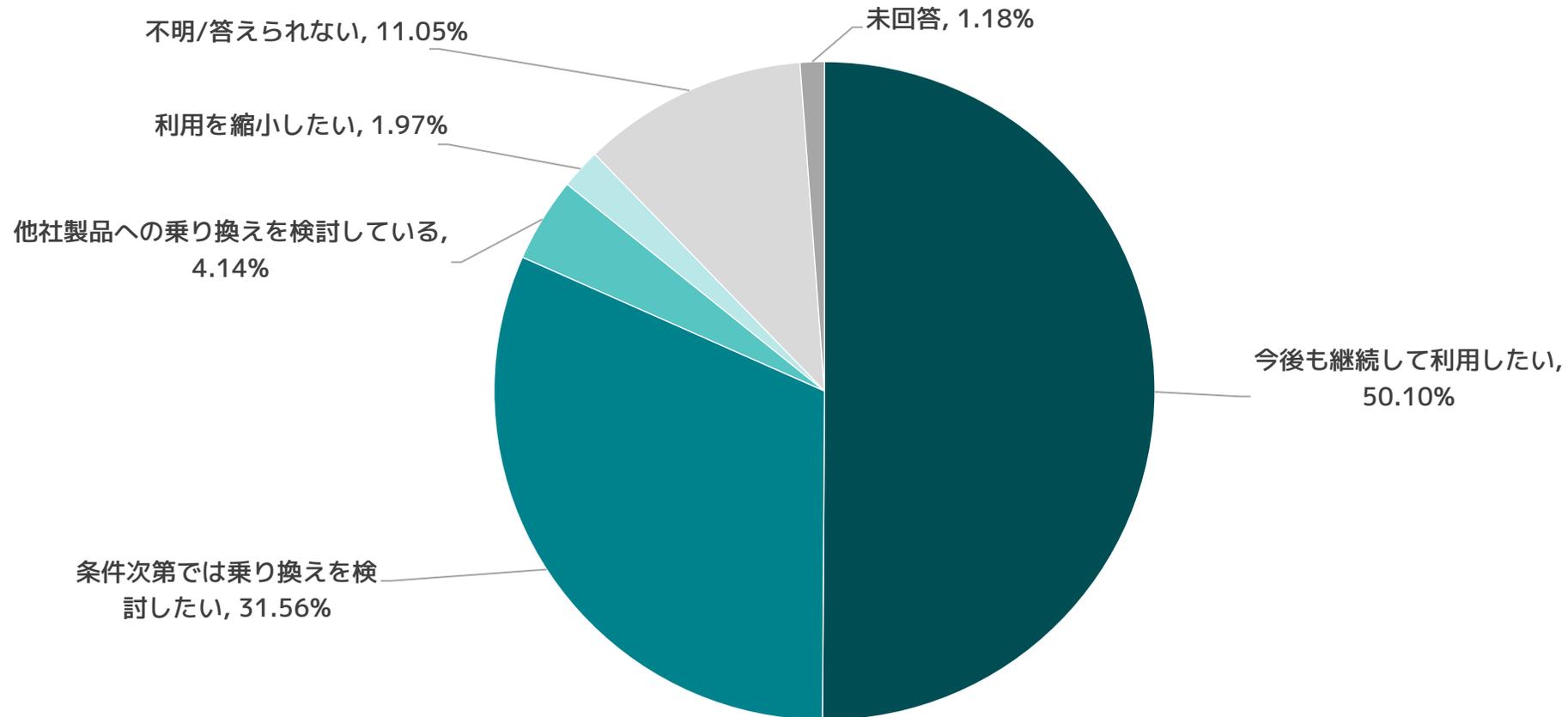
課題が「かなりある」「ややある」と回答した方の課題



AI-OCR導入後の課題については、「ややある」が39.84%、「かなりある」が32.94%となり、約7割の企業が何らかの課題を感じている結果となった。課題の内容としては「文字認識の精度が十分でない」が187件で最も多く、次いで「多様な帳票レイアウトに対応できない」が136件、「確認・修正作業が残り、手間が減らない」が131件となった。

認識精度については満足している企業が多い一方で、認識精度や運用面において課題を感じている企業も一定数存在することが分かる。

AI-OCRの今後の利用について、現時点でのお考えを教えてください。

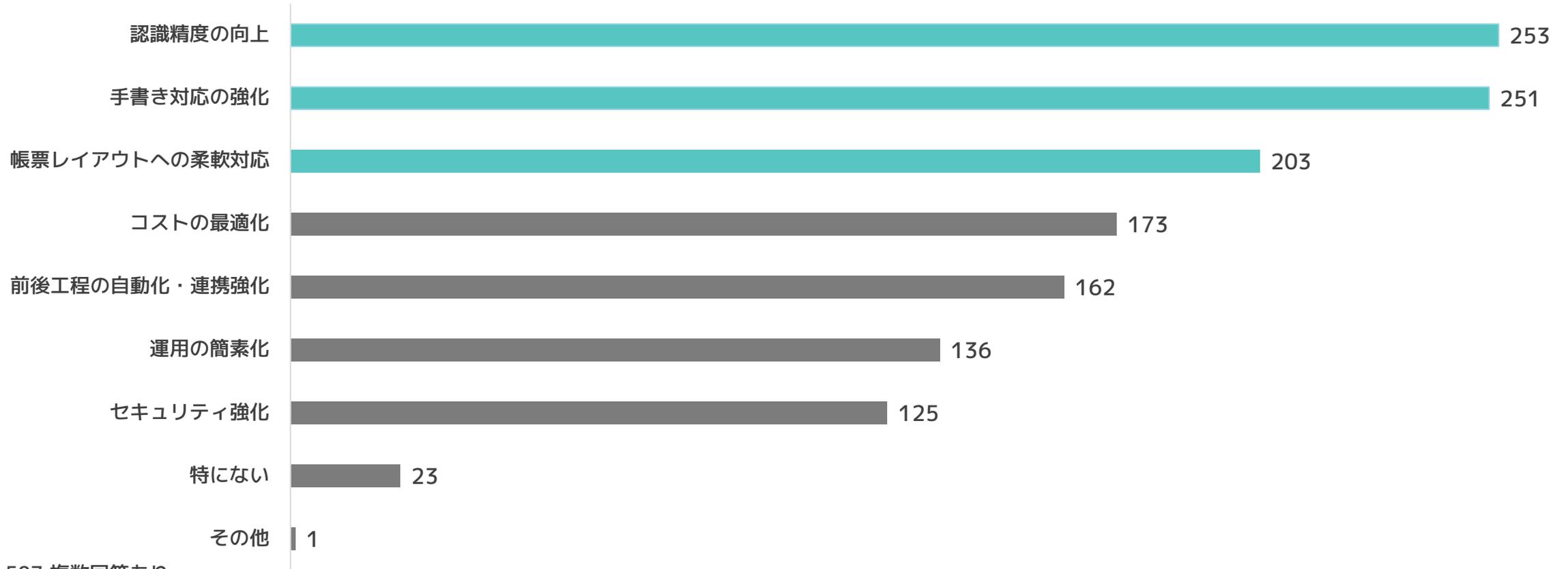


n = 507

AI-OCRの今後の利用については、「今後も継続して利用したい」が50.10%で最も多い結果となった。次いで「条件次第では乗り換えを検討したい」が31.56%、「他社製品への乗り換えを検討している」が4.14%となっている。この結果から、AI-OCRの活用は一定程度評価されている一方で、より精度や機能、運用面で優れたサービスがあれば見直しを検討する企業も少なくないことが分かる。

Q17 今後AI-OCRに期待すること

今後、AI-OCRに期待することを教えてください。



n = 507, 複数回答あり

今後AI-OCRに期待することとしては、「認識精度の向上」が253件で最も多く、次いで「手書き対応の強化」が251件、「帳票レイアウトへの柔軟対応」が203件となった。また、「前後工程の自動化・連携強化」も162件挙げられており、OCRによる文字認識だけでなく、RPAやiPaaSなどと連携した業務全体の自動化を期待する声も見られる。OCRの精度向上とあわせて、業務プロセス全体の効率化に対するニーズが高いことがうかがえる。

会社概要（制作企業）



| | |
|--------|---|
| 商号 | スターティアレイズ株式会社 スターティアホールディングスグループ 東京証券取引所 プライム市場（証券コード：3393） |
| 本社所在地 | 東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス19階 |
| 設立 | 2017年11月10日（営業開始日：2018年4月2日） |
| 代表者 | 代表取締役社長 鈴木 健太 |
| 資本金 | 9,000万円 |
| 代表電話番号 | 03-6316-1488 |
| 事業内容 | バックオフィスDX支援事業 |

ISMS 認証

スターティアグループは ISMS（情報セキュリティマネジメントシステム）の国際規格「ISO/IEC27001」並びに国内規格「JIS Q 27001」の要求事項に適合していることを証されています。



IS 575952 / ISO(JIS Q)27001

PMS 認証

スターティアグループは PMS（個人情報保護マネジメントシステム）の国内規格「JIS Q 15001」の要求事項に適合していることを証されています。



JIS Q 15001
個人情報保護
マネジメントシステム
PIMS600303

グループ概要



| | |
|-------|----------------------------|
| 商号 | スターティアホールディングス株式会社 |
| 本社所在地 | 東京都新宿区西新宿2-3-1 新宿モノリス19階 |
| 設立 | 1996年2月21日 |
| 代表者 | 本郷 秀之 |
| 資本金 | 824,315千円 |
| 上場取引所 | 東京証券取引所 プライム市場（証券コード：3393） |



Contact

【2026年度版】 AI-OCRサービス導入に関するアンケート調査レポート

本資料の著作権はスターティアレイズ株式会社に帰属します。

本資料についてのお問い合わせ、ご相談は下記までご連絡ください。

お問い合わせ先：スターティアレイズ株式会社

〒163-0919 東京都新宿区西新宿2丁目3-1 新宿モノリス19F

コーポレートサイト：<https://www.startiaraise.co.jp>

- 引用・転載について

本資料内のデータの引用・転載時には、必ず当社クレジットおよび資料のリンク先を明記いただけますようお願い申し上げます。

<例>出典元：スターティアレイズ株式会社「AI-OCRサービス導入に関するアンケート調査レポート」

- 本資料に掲載された内容の一部または全部を改変して引用・転載することは禁止いたします。商品・サービスの広告における利用もご遠慮ください。
- 引用・転載されたことにより利用者または第三者に損害その他トラブルが発生した場合、当社は一切その責任を負いません。